

※結果分析(○成果 ●課題)  
〈学力調査〉

【国語】

○漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる設問で、正答率が全国平均を上回りました。また、文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる設問で、全国並みの理解ができていました。朝学習や家庭学習などの基礎・基本を重視した指導の成果が表れました。

●平均正答率は全国に比べ6.7ポイント、岡山県に比べ8ポイント低い結果でした。特に、記述式の設問のうち、説明文を読んで中心となる語や文を見つけて要約したり、理由を明確にしながらか自分の考えを書いたりする設問では、全国平均を大きく下回り、無回答率も高い結果となりました。短い時間で文章全体を読み取ることが難しく、後半の設問に取り組めていない児童も見受けられました。

【算数】

○本の貸し出し冊数が表された場面において、棒グラフから数量を読み取る設問と条件に合う時刻を求める設問の正答率が92.9%と高かったです。データの分析に関わる知識・技能、日常生活に必要な時刻や時間を求める知識・技能がよく身に付いています。

●平均正答率は全国に比べ7.2ポイント、岡山県に比べ6ポイント低い結果でした。特に、三角形や平行四辺形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる設問の正答率が低く、図形の高さの捉え、公式の意味の理解が不十分であることが分かりました。また、「8人に、4Lのジュースを分けるとき、1人分のジュースの量を求める式と答えを問う」商が1より小さい場合の除法の正答率は42.9%（全国55.2%）でした。問題に出てきた数字の順番で「 $8 \div 4$ 」と誤って立式している児童の割合は35.7%と高かったです。問題場面や除法の意味の理解が十分とは言えない結果となりました。

〈学習状況調査〉

○「ICT機器を活用した学習」に関する設問で、週1回以上コンピュータを使用していると答えた児童の割合（50%）は全国や県と比べて高く、他の友達と意見交換したり、調べたりするなど、授業におけるコンピュータの活用が進んでいることがうかがえました。また、「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童の割合が92.8%と高いことも顕著でした。

●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と答えた児童は21%でした。（全国70.9%）また、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができたと答えた児童は28.6%でした。（全国78.8%）学んだことを生かしながらか自分の考えをまとめたり新しいものを作り出したりしたと答えた児童は35.7%でした。（全国66.2%）消極的な姿がうかがえる結果となりました。また、学校の授業時間以外に、読書を全くしないか10分より少ないと答えた児童の割合が67.1%でした。新聞をほとんど、または、全く読まない児童の割合も85.7%（全国70.4%）と高く、活字離れ・読書離れは深刻な

※学校としての対応・目標

・学習内容の理解を確実なものにするため、全教職員が一体となって、つまずきの大きかった単元や領域を重視し、児童が達成感を味わえる分かりやすい授業づくりに取り組み、課題となっている学力の定着を図ります。

・考えをまとめて書く力の育成をめざし、書いたり読んだりする機会を増やします。特に、決められた時間の中で、文章の内容を捉え、要約していく学習を系統的・段階的に行います。

・算数科では、問題文を絵や図に表して問題場面を掴むこと、図を使って自分の考えを説明すること、つまずきそうな活用問題に取り組んでいきます。

・朝の学習、放課後学習の時間に、「問題データベース」やタブレットドリルを使うなどして前学年の復習に取り組むとともに、本を読む習慣、本を通じて物事を調べる習慣を確立していきます。

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、  
よろしくお願ひいたします。